

第 26 回 IFKS 定期演奏会

「妖精の誘い^{いざな}」

～戯曲『妖精の丘』の音楽より～



2014 年 10 月 25 日（土）18:00 開演

IMA ホール

主催：インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会

プログラム

1. 『妖精の丘』 ポップリ

アウグスト・マルティン・カンタール (1804 ~ 1881)

によるフルート四重奏曲 編曲：石原利矩

Flute : I 米山典子、II 葛西よう子、III 小川美沙、IV 小野宏子

2. 『妖精の丘』の「狩人の合唱」によるピアノのための変奏曲

カール・シュヴァルツ (1803~1834)

Piano : 伊吹このみ

3. フルート二重奏曲 作品 102-2

フリードリヒ・クーラウ (1786 ~ 1832)

Flute : I 工藤重典、II 酒井秀明

4. フルートソナタ 作品 64 第2楽章

フリードリヒ・クーラウ

Flute : 工藤重典 Piano : 伊吹このみ

～ 休憩 ～

5. 「さらば、スカンジナビア」

『妖精の丘』の主題によるフルートとピアノ (またはオーケストラ) のためのイントロダクションと変奏曲 作品 72

アントン・ベルンハルト・フュルステナウ (1792 ~ 1852)

Flute : 酒井秀明 Piano : 伊吹このみ

6. スウェーデン民謡「ネッケンのポロネーズ」によるピアノのための変奏曲、作品 11

ユリウス・レントゲン (1855 ~ 1932)

Piano : 浅野麻耶

7. フルート合奏とハーブのための『妖精の丘』バレエ音楽

クーラウ作曲 / トーケ・ルン・クリスチャンセン編曲

Flute : 新井力夫、井清真弓、植竹里奈、上野京子、小川美沙、小野宏子、葛西よう子

岸 朋子、久慈弥重子、工藤重典、河野洋子、小島邦雄、近藤美津江、酒井秀明

佐々木親綱、佐藤晶子、澤田杏子、塩澤直緒、城谷千保、鈴木千代、高橋由江

高村玲子、徳植俊之、中村和正、野原千代、米山典子、Piano : 浅野麻耶

指揮：石原利矩

デンマークのステウンス地方には妖精の王の伝説があります。

妖精の王は地下の岩穴に住み彼の周りには美しい妖精の王の娘たちがかしずいています。闇の世界から人間を伺いながら、奪った財宝に埋もれ自らの世界を守っています。夜な夜な妖精の娘は丘にきて踊りを踊り、その踊りと歌声に魅せられた若者は魂を奪われて命を落とします。

ハイベア作、クーラウ曲の戯曲『妖精の丘』は、この古くから伝わる民話の妖精の王と、史実のデンマーク国王クリスチャン4世を登場させ、王様が取り決めた結婚話によって相思相愛の二組の家臣のカップルに降り懸かる困惑とその解決の物語です。この戯曲は1828年11月6日コペンハーゲンの王立劇場で初演され、その後、デンマークの国民的な戯曲として熱狂的に愛好され現在に至っています。ハイベアとクーラウの共同作業で完成されたこの戯曲は、オーケストラの序曲で始まり、独唱、重唱、合唱、バレエなどを配し、このファンタジックな物語を盛り上げています。クーラウはこの台本を受け取ってから約3ヶ月で音楽を作曲しました。その多くは北欧の民謡を素材にしています。演劇と民謡と自らの音楽との融合は絶妙です。

戯曲『妖精の丘』の中での音楽は次のようになっています。

序曲

第1幕

Nr.1 メロドラマ

Nr.2 ロマンس (カーン)

Nr.3 ロマンс (カーン)

Nr.4 農民の合唱

第2幕

Nr.5 ロマンс (エリーサベト)

Nr.6 ロマンс (エリーサベト)

第3幕

Nr.7 農民の合唱を伴う歌 (モーウンス)

Nr.8 踊りを伴うロマンс (カーン&モーウンス)

Nr.9 農民の合唱

Nr.10 狩人の合唱 (4本のホルンと合唱)

第4幕

Nr.11 アグネーテの夢 (妖精の王、妖精の娘たちの踊り)

第5幕

Nr.12(バレエ音楽)

Nr.13 王家の歌の合唱

本日の演奏会のテーマは「妖精の誘い」～戯曲『妖精の丘』の音楽より～となっています。そこで今日のプログラムはクーラウの『妖精の丘』の音楽に使われたメロディを、いろいろな作曲家(本人を含め)が用いた作品を集めたものです。別表に本日のプログラムの曲に用いられた箇所を○で記してありますのでご覧下さい。

曲目解説

1. Potpourri pour la flute d'après Théma favoris del'Opera Elverhöi

Musique de F. Kuhlau----August Martin Canthal より

Quartett for 4 Flutes arranged by Toshinori Ishihara

カンタールはフルーティスト兼作曲家でハンブルク・オペラ劇場の音楽監督もした人です。この曲はそもそもフルート・ソロ用に作曲されたものですが、不肖石原がフルートの四重奏に編曲したものです。ポププリ (Potpourri) とはメドレーと同じ意味で、いろいろな曲を数珠つなぎにして 1 曲にまとめたものを言います。なおこのうちの 3 曲は主題と変奏曲になっています。曲名の表記に『妖精の丘』を Opera と書かれていますが、Drame の方が適切であると思います。

Allegretto, 6/8, G-dur

Romance, 4/4, Allgretto, D-dur, 主題と変奏

Romance, 2/4, Andante con moto, h-moll, 主題と変奏

Romance, 2/4, Andantino quasi Allegretto, D-dur, 主題と変奏

Jäger Chor (狩人の合唱), 2/4,, Allegro con molto fuoco, Es-Dur

Allegro moderato, 2/4, G-dur

Allegro, 3/8, A-dur

Moderato, 3/4, D-dur

Allegro con fuoco, 4/4, d-moll

Coda, 4/4, D-Dur

2. Introduction et Variations sur un thème favori de l'opera Elverhöi de

Fr. Kuhlau pour le Pianoforte Op. 19---- Carl Schwarz

シュヴァルツはクーラウの弟子でスウェーデンのピアニスト兼作曲家です。デンマークでピアニストとして活躍し、後スウェーデンに移りました。生前クーラウと共にハンブルク旅行を共にしたり、クーラウをスウェーデンに招いたりしたほどの親しい間柄でした。作風はクーラウを師とする如く共通するものを感じます。主題は『妖精の丘』第 3 幕のホルン 4 本に導かれる「狩人の合唱」のメロディです。

Introduzione : Allegro maestoso, 4/4, es-moll

Thema : Allegro con molto fuoco, 2/4, Es-dur

Var.1: Brillante

Var.2-8: 無記入

Var.9: Marcia funebre, Andante maestoso, 4/4, c-moll

Var.10: Alla polacca, 3/4, Es-dur

3. Trois Duo brillans pour deux Flûtes Op.102-2----- F. Kuhlau

クーラウのフルート二重奏曲は 18 曲 (Op. 10a, 39, 87, 80, 81, 102) を数えます。この作品は 1829 年に作曲され 1830 年に出版された 3 曲中の第 2 番で、2 楽章構成です。その第 2 楽章は『妖精の丘』第 3 幕でカーンとモーウンスによって歌われる「海の底深く」のメロディを用いた変奏曲です。『妖精の丘』の曲名としては「踊りを伴うロマンス」となっていますが、二人の歌に合わせて農民がポロネーズを踊るシーンに用いられているものです。

フルートの扱い方はクーラウの作曲技術を余すところなく駆使した二重奏として親しまれている作品です。

第1楽章：Adagio, 4/4, E-dur --- Allegro assai con molto fuoco, e-moll

第2楽章：Tempo di polacca, 3/4, e-moll

なお第2楽章の変奏曲の主題はスウェーデン民謡「ネッケンのポロネーズ」と呼ばれるものです。原曲の民謡とは幾分変わっています。それは『妖精の丘』の中では歌詞のためにクーラウが変えたものです。「ネッケンのポロネーズ」に関しては後述します。

4. Grande Sonate brillante pour Pianoforte et Flûte Op. 64-II ---F. Kuhlau

クーラウのフルートソナタの最初の作品(1825年出版)です。3楽章構成ですが本日はその第2楽章だけをお聴きいただきます。この楽章は変奏曲で書かれていて、主題は古いデンマーク民謡 "Der strander et Skib mellem Fjord mellem Mind" 「船がフィヨルドと崖の間で座礁している」というものです。クーラウはこのメロディを『妖精の丘』第2幕のエリーサベトの歌に用いていますが、歌詞は民謡とは全く異なるもので "Der vanker en Ridder mellem grønne Træer" 「騎士は緑の木々の間をさまよう」となっています。

Introduzione: Andante, 2/4, g-moll

Thema: a tempo

Var.1 指示なし

Var.2 Un poco più moto

Var.3 Piano Solo (con fuoco)

Var.4 指示なし

Var.5 Allegro, 4/4

Var.6 Var.7 指示なし

Var.8 Più allegro---Più presto---Cadenza

Coda: Andantino, 6/8

5. Les adieux à la Scandinavie / Introduction et Variations brillantes sur un thème favori du Melodrame Elverhøi de Fr. Kuhlau pour la Flûte avec accompagnement de grande Orchestre ou de Pianoforte Op. 72----A. B. Fürstenau

フルステナウはドイツのフルーティスト兼作曲家です。3代に亘るフルーティストの家系の第2代目の人でフルートの曲を沢山作曲しています。ヨーロッパ中を演奏旅行していますが、デンマークも何回か訪れています。1823年にデンマークへ来た際、ドイツに帰るキールまでの船旅はクーラウと一緒にでした(前述のシュヴァルツが同道したのはこの時です)。クーラウとの親交(恐らく1821年のクーラウがドイツ〜ウィーン旅行した際に知り合ったと想像される)により、フルート二重奏曲、作品39(1821/1822出版)はこの人に献呈されています。1829年フルステナウが演奏旅行で再びデンマークを訪れた時、『妖精の丘』の上演(再演)に接しこの変奏曲が作曲され、自らの演奏会で演奏しています。その後デンマークのローセ社から出版されました。主題は前曲の「ネッケンのポロネーズ」を用いていますが、譜割は『妖精の丘』と同じヴァージョン(3連音符の小節は『妖精の丘』と同じ)です。クーラウの作品102はまだ出版されていなかったからでしょう。

Introdutione: Adagio maestoso, 2/4, D-dur

Thema: Allegretto (Marcato), 3/4, d-moll

Var. 1 (con Gracia)

Var. 2 poco Allegro (sempre legato)

Var. 3 (con fuoco)

Var. 4 (sempre pianissimo)

Var. 5 無記入 (ただしフォルテ)

Finale: Var. 6 (Brillante)

6. Neckens Polska / Variationen über ein schwedisches Volkslied für Pianoforte Op. 11----Julius Röntgen

レントゲンというと X 線の発見者を思い浮かべますが、作曲家レントゲンとは全く関係がありません。彼はライプツィヒで生まれ、初めライネッケにピアノを師事し、青年期はミュンヘンでピアニストとして活躍し、後オランダに帰化しています。この主題を選んだのはピアニストの夫人がスウェーデン人であったからかも知れません。

Thema: Luhig, 3/4, b-moll

Var. 1 Thema ben tenuto

Var. 2 Langsam, feierlich

Var. 3 Luhig

Var. 4 Lebhaft, 6/8

Var. 5 Lebhaft, nach und nach leidenschaftlicher, 3/4

Var. 6 Mit grosser Kraft

Var. 7 Etwas langsamer als das Thema

Var. 8 Sehr markirt

Var. 9 Schnell

Cada: Sehr langsam, Schnell, Luhig, Tempo des Thema, Langsam, Sehr langsam

ネッケンとは：

ネッケンは民俗伝承によれば超自然界に存在する生き物で小川、川、湖に住み、その演奏（弦楽器）で人間を魅了し、姿は人間、もしくは子馬であり長いしっぽを持っています。この馬は何も知らない人間にそのしっぽで触れて魅了させ、不幸にもそれに捕まると水に飛び込みその人間を溺れさせてしまうのです。ネッケンは川の守り神であり海の民族に近いものです。

スウェーデンではネッケン Näcken は楽器（ヴァイオリン）の名手であると言われています。彼は自らその技を人に教えたがり、その技を教えてもらった者が演奏すると人々を魅了しますが、今度は演奏を止めることが出来なくなるのです。同様に踊りの場合も同じで踊りを止めることが出来ません。そこに張られている弦をナイフで切ることでは魔法は解けないのです。最も恐れられているネッケンは島を襲う嵐です。毎年、彼は生け贄を要求します。そうしないとその地方を荒らすのです。嵐で警告を始め、風の中から聞こえてくるネッケンの弾くヴァイオリンの音は「溺れさせて殺すぞ」という警告です。

妖精の王とネッケンは系列の異なる民族伝説ですが、音楽で人を惹きつけたり、不気味な魔界に住み人間を脅かすものと性格づけられている点でどこか共通しているように思われます。この共通点からこのメロディが『妖精の丘』の中に取り上げられたのでしょうか。

次に「ネッケンのポロネーズ」の使用例を比較してみます。調性はそれぞれ異なりますが、比較の便宜上全てを e-moll に移調しています。

1. スウェーデン民謡のオリジナル（調性は不明）

2. クーラウが『妖精の丘』で用いたもの
3. クーラウの作品 102-II で用いたもの（オクターヴ下げています）
4. フュルステナウの用いたもの（オクターヴ下げています）（2 と全く同じ）
5. レントゲンの用いたもの
6. アンブロワーズ・トーマ作曲、オペラ『ハムレット』の中のオフィリアのアリアで用いられたもの

Neckens Polska

スウェーデン民謡

『妖精の丘』 d-moll

Op. 102-II e-moll

フュルステナウ d-moll

レントゲン b-moll

トーマ「ハムレット」 e-moll

5
民謡

～丘

102

フュ

レン

ハム

10

民謡

～丘

102

フユ

レン

ハム

14

民謡

～丘

102

フユ

レン

ハム

7. Ballet music from “Elverhøj” for Flutes and Harp arranged by Toke Lund Christiansen

クリスチャンセン氏はデンマークを代表するフルーティストです。この編曲は 1986 年クーラウの生誕 200 年の記念演奏会で演奏されたものです。フルート・オーケストラにハープが伴うもので、右と左にフルートを置き中央に低音楽器を配しステレオ効果を意図した編曲です。今日はハープの代わりにピアノで演奏します。

1. Allegro, 3/8, d-moll

2. Allegro moderato, 2/4, F-dur

3. Allegro con moto (Krandsdans= 花輪のおどり), 4/4, A-dur
4. Menuetto, 3/4, f-moll
5. Allegro (Contradans), 2/4, Des-dur
6. Polonaise, 3/4, f-moll---Trio, F-dur
7. Andante (Pas de Huit), 2/4, As-dur

最後に『妖精の丘』の曲で、本日のプログラムでお聴きいただいたメロディには○印が記されています。

『妖精の丘』の音楽								
			Canthal	狩人の合唱変奏曲	Op.102	Op.64-II	Furstenau	Roentgen
序曲		ファンファーレ						
		アグネーテの夢のテーマ						
		第1主題:妖精の踊り						
		第2主題:エリサベートの歌						
		第3主題:モーウンスと農民のテーマ						
第1幕		王家の歌						
	Nr.1	メロドラマ	○					
		ホルン						
		トランペット						
	Nr.2	ロマンス(カーン)						
第2幕	Nr.3	ロマンス(カーン)	○					
	Nr.4	農民の合唱						
	Nr.5	ロマンス(エリーサベト)	○					
	Nr.6	ロマンス(エリーサベト)	○			○		
	Nr.7	農民の合唱を伴う歌(モーウンス)	○					
第3幕	Nr.8	踊りを伴うロマンス(カーン&モーウンス)			○		○	○
	Nr.9	農民の合唱						
	Nr.10	狩人の合唱(4本のホルン)	○	○				
	Nr.11	アグネーテの夢						
		妖精の娘たちの踊り						○
第4幕		妖精の王の踊り	○					○
		妖精たちの踊り	○					
	Nr.12(バレエ音楽)	メヌエット						○
		コントラダンス						○
		ポロネーズ	○					○
第5幕		子供の踊り						
		バ・ド・ウイット						○
		花輪の踊り						○
		エコセーズ						
		狩人のホルン						
	Nr.13	王家の歌の合唱						

2015年10月11日(日)、IFKSは戯曲『妖精の丘』を第一生命ホールにて上演を致します。

演劇、バレエ、独唱、重唱、合唱、オーケストラの上演はデンマーク国外で初めての事です。今日演奏されたメロディがどういう場面で登場するかは、この演奏会をお聴きいただければ良くお分かりになると思います。演奏会のご案内、入場券予約は逐次ホームページでお知らせします。

IFKSのホームページはURL: <http://www.kuhlau.gr.jp/>



フルート 酒井 秀明 (さかい ひであき)

北海道札幌市出身。吉泉清志氏、松原悠久氏に師事。札幌西高校から国立音楽大学に入学。石原利矩氏に師事。1977年同大学を主席で卒業。同年デトモルト北西ドイツ音楽院に留学し、パウル・マイゼン教授に師事。1979年ミュンヘン国際音楽コンクールで第3位入賞(1位なし)。その後、ミュンヘン国立音楽大学マスター・クラスに移籍し、1983年に大学院修了。同大学講師となる。同年ジュネーブ国際音楽コンクールで第2位(1位なし)入賞。1984年1月「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団と共演。同年からフィルハーモニア・フンガリカのソロ・フルーティストとなり、ヨーロッパはもとより世界各地で活躍。1995年に帰国。洗足学園音楽大学准教授に就任。ソロ、室内楽の演奏活動と同時に、日本音楽コンクール、全日本学生音楽コンクール、かながわ音楽コンクール、みえ音楽コンクール、仙台フルートコンクール等、国内のコンクール他、神戸国際フルートコンクール、ニールセン国際コンクール等国外のコンクールの審査員も務める。本年度は、ジュネーブ国際コンクール及び中国で行われるニコレ国際フルートコンクール審査員として招かれる。現在、日本フルート協会副会長、洗足学園音楽大学客員教授。



フルート 工藤 重典 (くどう しげのり)

札幌生まれ。桐朋学園を中退し渡仏。1979年にパリ国立高等音楽院のJP.ランバル氏のクラスを一等賞で卒業。パリ国際フルートコンクール、ラ・ロッシュェル現代音楽コンクール、ミュンヘン国際コンクール、ランバル国際フルートコンクールなどに入賞。これまでにイギリス室内管弦楽団、バイヤール室内管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ノルウェー室内管弦楽団、モスクワ放送交響楽団、フランツ・リスト室内管弦楽団、ラムルー管弦楽団、パリ・コンセル・パドゥール管弦楽団、イ・ソリスト・ベネティ、ルクセンブルグ放送管弦楽団、パルセロナ交響楽団、南アフリカ国立放送協会交響楽団、サンクトペテルスブルク・ヴィルトゥオーゾ、バイエルン放送交響楽団、シモン・ボリバル・ユース・オーケストラ、パリ室内管弦楽団、KBS交響楽団、台湾国家交響楽団、国立マレーシアフィルハーモニー管弦楽団、ポーランド室内管弦楽団、国内ではNHK交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団など全ての主要オーケストラと共演。また、JP.ランバル、ロストロポーヴッチ、パスキエトリオ、ウィーン弦楽四重奏団、C.ボリング、V.D.ロスアンヘレス、J.ノーマンなどのソリスト達と共演も多い。リサイタルやマスタークラスを40ヶ国、180以上の都市で開催。また、CDやレコードは、これまでに60枚以上リリースしている。20年以上に渡り、小澤征爾指揮/サントウキネンオーケストラの首席フルーティストを務め、現在は、パリエコール・ノルマル、東京音楽大学、上野学園大学、大阪音楽大学にて後進の指導にもあたっている。現在、水戸室内管弦楽団首席奏者、オーケストラ・アンサンブル金沢特任首席奏者を務める。文化庁芸術作品賞、村松賞、フランス国大統領賞、京都芸術祭特別賞を受賞。



ピアノ 伊吹 このみ (いぶき このみ)

成城学園大学文芸学部マスコミ科、および桐朋学園短期大学ピアノ科を卒業。ピアノを青木紀子、高柳朗子、遠山慶子、声楽を坂根豊子の諸氏に師事。1977年ドイツ、デトモルト北西音楽大学に留学し、ハンス・ウルリッヒ・クンツェ教授に師事。1980年同大学を卒業。1981年ミュンヘン国立音楽大学チェンバロ科に入学。ヘドヴィヒ・ビルグラム教授に師事。1985年同大学院修了。ドイツでは、在学中よりドイツ放送局、バイエルン放送局等のラジオ録音を行う他、パウル・マイゼン、コンラッド・ヒュンテラー、レナーテ・クライス氏の講習会の伴奏を務めた。ミュンヘン、ジュネーブのコンクールでは酒井秀明の伴奏を務める等、国際コンクールの伴奏でも優れた実績を残す。1995年帰国。室内楽、伴奏の分野で活動する他、「Konomi 誰とでも音楽塾」を主宰し、音楽を通して人々との交流を日々楽しんでいる。



ピアノ 浅野 麻耶 (あさの まや)

4歳よりピアノを始める。国立音楽大学附属小・中・高等学校を経て1999年3月、国立音楽大学ピアノ科を卒業。2002年3月、昭和音楽大学大学院ピアノ専攻修了。ピアノを小笠原京子、新井伶依子、古代公子、拝田正機、浅川豊夫の各氏に師事。2003年5月、ブルガリア・シュメン市にてパンチョ・ヴラディゲロフ国際ピアノコンクールに出場、セミファイナリストとなる。2003年1月、トモノホール(市ヶ谷)にて第1回ピアノリサイタルを開催。2005年9月にめぐろパーシモン小ホール(東京)、2007年9月には大田区民アプリコ小ホール(東京)にてリサイタルを開催。2004～2007年、昭和音楽大学附属バレエ教室にてバレエピアニストを務める。2007年9月、渡仏。2007～2011年、パリ・エコールノルマル音楽院に留学。ピアノをV.メルキ、室内楽をG.マルティニーの各氏に師事。ピアノ教授課程ディプロム、室内楽高等ディプロムを審査員満場一致にて取得。2010年夏、ブリュージュ国際音楽アカデミーに参加。ピアノ及び室内楽をG.マルティニー氏に学び、選抜コンサートに出演。在仏中、パリ・シテ・デザール・コンサートホールにてヴァイオリンとのジョイントリサイタルに出演。エコールノルマル音楽院主催のコルトーホールでのコンサート、パリ第8区役所主催のコンサート等に出演。2011年11月に帰国。2012年8月、新宿村スタジオにてアメリカン・バレエ・シアターのダンサー、ジョゼフ・フィリップスによるバレエワークショップのバレエピアニストを務める。2012年9月及び2013年10月の2度に渡り、パリのサン・ベルナル教会(モンパルナス)にてピアノリサイタルを行う。2012年11月、新宿文化センター小ホールにて、2013年11月、古賀政男音楽博物館けやきホールにて、ジネーヴ・ペトルッチ(II)とのダブルリサイタルを開催。現在、一般社団法人 ヨーロッパ芸術文化振興協会 特別会員ピアニスト。



フルート 米山 典子 (よねやま のりこ)

ロンドン・ギルドホール音楽院にて演奏家資格取得。NHK洋楽オーディション合格、FMリサイタルに出演。1991年、1994年にリサイタル開催。1992～2000年、自主企画の室内楽シリーズ演奏会を企画・開催。これまでに W. ベネット、T. ワイ、R. ギオー、T.L. クリスチャンセン各氏のマスタークラス、故 C. ラルデ氏の公開レッスンを受講。フルートを石原利矩、高村(倉田)寛子、P. デイヴィスの各氏に、室内楽を故 C. ペンソン氏に師事。現在、ソロ、室内楽を中心に活躍中。アンサンブル・ベルジェ、おはなしクラシックメンバー。インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会理事。Studio Berger 主宰。



フルート 葛西 よう子 (かさい ようこ)

神奈川県出身、昭和音楽大学音楽学部器楽学科卒業。石原利矩氏、宇野浩二氏、佐藤和美氏に師事。日本フルート協会主催デビューリサイタル出演。ソロ、アンサンブルの演奏活動他、後進の指導にあたっている。



フルート 小川 美沙 (おがわ みさ)

静岡県静岡市出身。5歳よりピアノ、9歳よりフルートを始める。フルートを、山下あやの氏、小澤節子氏、石原利矩氏に師事。



フルート 小野 宏子 (おの ひろこ)

福島市出身。9歳よりフルートを始める。横浜市立大学看護短期大学部卒業後、看護師として7年間病院勤務。2009年3月、病院を退職。同年4月よりデンマークに留学。T.L. クリスチャンセン氏に師事。2010年9月、デンマーク王立美術館にて室内楽コンサートに出演。同年10月、福島市音楽堂にてリサイタルを開催、クリスチャンセン氏と共演。2012年3月、国際エネルギー会議における外務大臣主催レセプションにて演奏。これまでに、フルートを阿部起佐子、石原利矩、T.L. クリスチャンセンの各氏に師事。現在、東京と福島にて演奏活動、後進指導にあたっている。青山フルートインスティテュート初級コース講師。ヨークカルチャーセンター福島講師。インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会理事。

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会 (IFKS)・入会案内

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会(欧文名称 International Friedrich Kuhlau Society 略称 IFKS)は、クーラウの芸術を再評価することに多大な意義があるとの確信のもとに、クーラウの作品と生涯、彼を中心とする黄金時代のデンマーク及び北欧の諸文化を研究、紹介、普及することを目的とした国際組織として設立されました。永年にわたって彼の音楽の研究・紹介に尽くしてきた石原 利矩を主宰者とし、会長にクーラウ研究の国際的権威、ゴーム・ブスク博士を推戴しております。

フリードリヒ・クーラウの213回目の誕生日に当たる1999年9月11日、当協会は発足しました。皆様のご参加を期待いたします。

■ 入会の資格

協会の趣旨にご賛同頂ける方ならどなたでも大歓迎です。ホームページよりお申込み下さい。
本日ロビーの受付でもご入会いただけます。

■ 会費 年間3千円

■ 会員の特典

- 1 毎年1回、クーラウやその時代に関する研究論文、読み物、貴重な情報を盛り込んだ会報をお届けします。
- 2 研究会、講演会、演奏会等のご案内、ご招待、入場券の割引などを行います。
- 3 協会所蔵の楽譜や著作、研究書等を閲覧できます。
- 4 協会が刊行する出版物等を割引価格で購入できます。
- 5 その他協会が行う各種の事業へご参加いただけます。

インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会事務所
〒107-0062 東京都港区南青山2-18-5 アエリア南青山801
Tel : 03-5770-5220 Fax : 03-5770-5221 <http://www.kuhlau.gr.jp>



感動を・ともに・創る



奏者の感性を彩る、3つの個性。

Handmade Flutes

ヤマハ ハンドメイドフルート

Bijou

“宝石”の名を与えられた、
煌めく響き

— ビジュー —

Idéal

“理想”の名を持って、
奏者に伝える

— イデアル —

Merveille

“驚異”の名を手に入れた、
音楽表現力

— メルヴェイユ —

●ヤマハ管楽器ホームページ <http://jp.yamaha.com/winds/>

●お問い合わせ 【株式会社ヤマハミュージックジャパン 楽器営業本部】 〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11 TEL.03-5488-1684

または、【お客様コミュニケーションセンター管弦打楽器ご相談窓口】 ナビダイヤル：0570-013-808 ※つながらない場合は 053-411-4744 へおかけください。

営業時間：月～金 10：00～18：00 / 土 10：00～17：00 (日曜・祝日・センター指定休日を除く)

株式会社ヤマハミュージックジャパン

*The Muramatsu
flute*



ひたすら、ハンドメイド。
つねに最高を求める技と心、
そして、フルートへの愛を込めて、
ムラマツは一徹です。

フルートを愛する人に、愛されるフルートを。

muramatsu

総発売元

村松楽器販売株式会社

東京都新宿区西新宿 8-11-1 〒160-0023
Phone 03-3367-6000 Fax 03-3369-1550

名古屋市千種区今池 5-1-5 〒464-0850
Phone 052-733-8822 Fax 052-733-5471

大阪市淀川区西宮原 2-1-3 〒532-0004
Phone 06-6394-6000 Fax 06-6394-5777

<http://www.muramatsufute.com>